



## 年間第 23 主日 (ルカ 14:25-33)

イエスの弟子は、何かをより少なく愛する

「もし、だれかがわたしのもとに来るとしても、父、母、妻、子供、兄弟、姉妹を、更に自分の命であろうとも、これを憎まないなら、わたしの弟子ではありえない。」(14・26) 弟子の条件として示されたこの招きは一瞬ぎょっとするものです。誤解を解いてから、今週の学びを得たいと思います。

ようやく日曜日の「聖書と典礼」がすべて大判になりました。これなら多くの人が手にとって利用してくれるでしょう。これからは「字が小さいから使わない」とは言えなくなりました。わたしなんか目をつぶってでも読めます。この取り組みが、典礼の奉仕により多くの人を参加させるきっかけになればと思います。

しかし費用の負担は頭の痛いところです。3ヶ月に1回請求書が来ます。これまでの小型版での請求が47500円でしたから、一気に7万円以上になると思います。50円のお賽銭を入れている人はぜひ・・・何を言いたいかは汲み取ってください。

ところでお気づきかと思いますが、聖書と典礼の朗読聖書にはすべて振り仮名が振られています。これは、「わたしは漢字が苦手で、小さい文字は読めません」と言って典礼奉仕を断らないための予防線です。

ミサの様子を見て、「この人ずっと聖書を読んでいるなあ」と思うことがあります。頼みづらくて、同じ人がずっと引き受けているのだと思いますが、これからはぜひ「聖書と典礼は大判になったし、神父さんもより多くの方が典礼当番をしてほしいと言っているから、引き受けてください」といろんな人に声をかけてください。お願いします。

福音朗読に戻りましょう。「もし、だれかがわたしのもとに来るとしても、父、母、妻、子供、兄弟、姉妹を、更に自分の命であろうとも、これを憎まないなら、わたしの弟子ではありえない。」(14・26) 「憎む」という言葉がどうしても引っかかると思います。この「憎む」を誤解しないで読む必要があります。

イエスが活動した地域で使われていた言葉は、アラム語と言ってヘブライ語の系統の言葉でした。日本語では「憎む」と訳されていますが、使われていた言葉の特徴を踏まえて考える必要があります。すると、次のようなことが考えられるそうです。

(a) ヘブライ語には比較級がないため、「より少なく愛する」と言う代わりに「憎む」を使うそうです。すると意味は「より少なく愛する」となります。(b) ヘブライ語の「憎む」には「放棄する」とか「脇に置く」の意味があるそうです。両方を考え合わせると、家族や自分の命のために弟子の覚悟が鈍るようなことがあってはならないとの呼びかけととることができます。

「より少なく愛する」という解釈を取るなら、「自分の十字架を背負ってついて来る者でなければ、だれであれ、わたしの弟子ではありえ

ない」(14・27)という招きは、はるかかなたの理想ではなく、生活の身近な場所で実行できる招きとなってきます。家族、自分の命、自分の持ち物など、身近な場所で「イエスの弟子としてついていくために、より少なく愛する」という生き方は可能ではないでしょうか。

同じ時間に、いくつかの用事が重なれば、どれかを優先し、どれかを後回しにしなければなりません。その時「自分の十字架を背負ってついて来る者」となるために、より少なく愛するものが見えてきます。わたしたちは、今の生活の中で、何かをより少なく愛するようにすることで、「自分の十字架を背負ってついて来る者」となるのです。

9月4日、バチカンでマザー・テレサが列聖されます。2003年に列福された時も、死後5年という慣例を飛び越えて列福調査が始まり驚きましたが、今回の列聖も異例の早さでした。わたしが説明するまでもないですが、マザー・テレサはインドのコルカタで死にゆく人々のために生涯をささげ、希望のない人に希望を与えたのでした。

彼女の生き方には、イエスの弟子としての覚悟がすべて込められていました。「もし、だれかがわたしのもとに来るとしても、父、母、妻、子供、兄弟、姉妹を、更に自分の命であろうとも、これを憎まないなら、わたしの弟子ではありえない。自分の十字架を背負ってついて来る者でなければ、だれであれ、わたしの弟子ではありえない。」彼女は晩年健康を害してしまいましたが、自分の命よりも見捨てられた人、誰も頼る者のない人を優先したのです。

彼女の有名な言葉があります。「どんな小さいことであっても、大いなる愛を込めておこなうことは、人に喜びを与えます。そして人の心に平和をもたらします。何をすることが問題ではなく、どれほどの愛をそこへ注ぎ込むことができるか。それが重要なのです。」わたしたちはマザー・テレサの言葉に倣って生きるなら、どこにいてもイエスの弟子であり、どんな生き方でも「自分の十字架を背負ってついて来る者」となれるのです。

イエスの弟子として生きるためには、どうしても何かをより少なく愛する必要が出てきます。わたしは、何をより少なく愛してイエスの弟子としての覚悟を示すことができるでしょうか。「まず腰をすえて」考えてみることにしましょう。